

研究課題

# 生徒一人ひとりを励まし支援する ネットワークを利用した評価システムの開発

副題

学校名	小牧市立小牧中学校
所在地	〒485-0046 愛知県小牧市堀の内四丁目30番地
学級数	21
児童・生徒数	689名
職員数/会員数	43名
学校長	野々部 智
研究代表者	玉置 崇
ホームページ アドレス	<a href="http://www.k-komaki-j.ed.jp/">http://www.k-komaki-j.ed.jp/</a>



## 1. はじめに

「全職員で子どもを育てよう」という思いを具現化する方法を創り出そう！

全職員は教員ばかりではなく、事務員、用務員も含めて学校に勤めるすべての大人として考えよう。

このコンセプトが本研究の始まりである。

「地域・家庭・学校が一体となって子どもを育てよう」とは、よく言われることであるが、まず学校において全職員が一体となって子どもを育てることが先決である。「あの子どもは私の学級の子どもではないので……」、あるいは「私の部活動ではないので……」といった雰囲気がある学校では子どもを育てることはできない。

理想を言えば、すべての職員が全生徒を我が子のように思い、その子どものよさや伸びる芽について情報交流をしながら、子どもを育てることができればと思う。

教育界には「生きる力」などといった聞こえのよい言葉が流行し、理念的にはけっして異論を唱えることができない文言が並べられる。この「全職員で子どもを育てよう」という呼びかけにも、当然、異議を唱える者はいない。しかし、内心は、これまでのように「理念は賛成。具体策なし。実現せず。」といった感覚であるのかもしれない。

本研究は、この「実現しない理念」を「具体策をもって実現する理念」に変える一つの挑戦である。

## 2. 研究の目的

「全職員で子どもを育てよう」という理念を具現化するために、以下のように考えた。

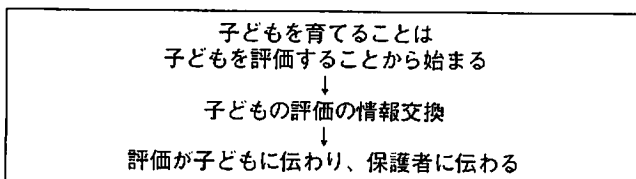
まず研究を始めるにあたって、子どもを育てることは、子どもの活動を評価することから始まると考え、すべての職員が子どもとのかかわりの中で子どもの活動を積極的に評価し、記録に残すことが大切だと考えた。

そして、職員間で気軽にその記録の情報交流ができることが、全職員で子どもを育てることにつながると考えた。

さらに、その評価があらためて子どもに伝わり、そして保護者にも伝わるのが、全職員で子どもを育てることの具現化につながると考えた。

本研究の目的は、この考えをもとに、これまでの業務にさらに負荷をかけることなく、日常的に、そして継続的に取り組める方法を、実践を通して創り出すことにある。

この研究を始めた時期は、平成10年に校内ネットワークが完備されたことを契機に、職員室ネットワークが充実をはじめたころである。日常性と継続性を支えるものとして、ネットワークの効果的な活用は欠かせないと考え、本校のコンピュータシステム管理をしている会社「株式会社エドウェル」（愛知県春日井市）に相談し、それまで使っていたグループウェアに我々



### <入力された画面>

右のように「気づいた日」「気づいた場面」「内容」「備考」が書き込めるようになっていて、生徒一人ずつ一覧で出力されるようになっている。

気づいた日	気づいた場面	内容	備考
2002/05/09			
2002/04/24			担任から「いいところ見つけ」の件について、コメントをいただきました。
2002/04/15			

### (3) 平成14年度第1学期における「いいところ見つけ」の実態からの分析

入力された一人の子どもの平均個数は、1年生は一人2.9個、2年生は一人3.2個、3年生は一人2.5個となった。多い子どもはなんと15個の「いいところ見つけ」が書かれていた。これまでは、担任からの総合所見のみであったことを考えれば、担任以外に平均2~3人の教師からの所見が通知表に入っているわけだから、教育効果はこれまで以上である。教科担任、部活動担当などから個々に所見を伝えられる意義は大きい。例えば、自分の場合は数学を担当しているが、指導を重ねても指導効果が現れず、やむをえず評定1をつけざるを得なかった子どもに対して「いいところ見つけ」では次のようにメッセージを伝えることができた。

分からないことをはっきり分からないと言えることは大切なことです。何度か続けて指名しても嫌がらず、きちんとやろうという素直な姿勢を人として本当に素晴らしいと思います。

これまでであれば、当然、口頭で子どもには伝えることはできたが、あらためて通知表ファイルの中に記載し、本人および保護者に伝えることができる教育的意義は大きい。

また、「いいところ見つけ」に何も入っていなかった子どもを改めて見てみると、ぜひとも伝えたいと思うよさも見えてくるのである。「ああ、この子はいつも私にきちんと挨拶できる子だなあ」と思い出し、

いつもきちんと挨拶ができ、にこやかで、こちらも気持ちがいそがしくなります。

と「いいところ見つけ」に記録した。それ以後、彼女の私へのあいさつは、さらに、にこやかになった。子どもとの結びつきが増したと大いに感じている。

保護者からは、「小牧中の先生みなさんで、我が子を見てもらっているようでうれしい通知表でした。」というメールをいただいた。こちらの意図が伝わったメールにうれしくなった。一方で「我が子は、いいところ見つけが一つ。聞くところによると、隣の子は5つあったそうです。数だけでも同じにしてもらえませんか」という電話もあった。こちらの意図が理解されていないのである。個数の問題ではなく、担任以外からメッセージがあ

ることに価値を見いだしていただくように説明する必要がある。学校は何をめざして、この「いいところ見つけ」を行っているのか。本質を忘れてはならない。

### 5. おわりに

本研究はけっしてコンピュータ活用のよさを前面に押し出すものではない。活用の根底にある「子どもを全職員で育てよう」というコンセプトの実現には、コンピュータは欠かせないということである。本質を見失わず、さらに改良に努めたい。

が考える機能を加えてもらうことにした。

### 3. 研究の方法

#### (1) 実践の流れの決定

- a. 子どもの活動を評価する
  - ・ 全職員が、すべての子どもに積極的にかかわる意志を持つことを共通理解する。
  - ・ 子どものよさを改めるべき点を子ども自身に認識させるために、積極的に声をかける。
  - ・ 子どものよさを「いいとこ見つけ」と称した個々のデータベースに記録する。
- b. 子どもの評価の情報交換
  - ・ 子どものよさを記録した「いいとこ見つけ」を折に触れて互いに読み合い、それぞれの教師の子どもに関する見方を学び合う。
  - ・ 個々の「いいとこ見つけ」記録数をチェックし、記録がない子どもや少ない子どもを意識的に観察する。
  - ・ 懇談会の折や個人面談の前の個別情報として活用する。
- c. 評価が子どもに伝わり、保護者にも伝わる
  - ・ 通知表に各教師が記した「いいとこ見つけ」を入れ込む。
    - \* 本校の通知表は平成13年度よりファイル形式の通知表に変更した。通知表というよりは通知ファイルである。年間20ページを超える情報量がある。

#### (2) システムへの機能追加

システム機能追加については、以下の点をクリアするようにお願いした。

- ・ 現在、稼働している職員室内グループウェアの機能の一つとして「いいとこ見つけ」が活用できるようにする。つまり各自の手元のコンピュータで気軽に使える機能とする。
- ・ 「いいとこ見つけ」の機能には、全生徒のデータベースを用意し、どの子どもにもすべての職員が記入できるようにする。また職員であれば、だれもが閲覧できるようにする。
- ・ 「いいとこ見つけ」は登録・変更・削除ができ、<気づいた日時><気づいた場面><記入者 = 自動的入力><内容><備考>という入力項目を設ける。
- ・ 「いいとこ見つけ」の入力数が生徒個々に一覧で表示される。
- ・ 「いいとこ見つけ」は、学期毎にA4判で、生徒別に印刷ができ、通知ファイルに差し込むことができるようにする。

#### (3) 実践を通して検証する

- ・ 目的を達成するのに追加された機能は有効かどうか。機能不全はないか。改良点はないか。
- ・ 理念の具現化はできたか。「全職員で子どもを育てよう」のコンセプトの実現は、この方法で可能となったか。検証は、全生徒への1学期間における入力総数や内容、できれば保護者や子どもの感想を聞く。
- ・ 職員の意識改革について調査する。

## 4. 研究の実際

### (1) 職員への共通理解

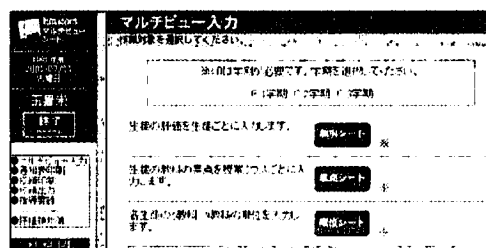
次のような呼びかけ（一部のみ掲載）を全職員に配布し理念の具現化に努めた。また折に触れ「いいとこ見つけ」への入力について喚起した。

「いいとこ見つけ」とは、全職員で子どもを育てようという思いを実現するシステムです。これまでの通知表は、担任だけが総合所見という形で、子どもたちへ、そして保護者へ思いを伝えてきました。しかし、子どもは担任だけでなく多くの職員が様々な場面でみています。清掃に献身的に取り組む子ども、部活動に全力で取り組む子どもなど、私たちはその子どものよさを見つけたなら、声に出してほめていることと思います。それを記録に残し、互いに情報交換をしたり、文書にして直接子どもや保護者に渡したりして、子どもをさらに伸ばそうというのが、この「いいとこ見つけ」です。

### (2) 追加された機能紹介

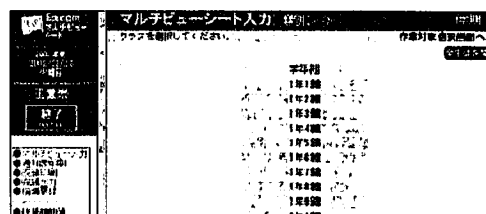
#### <入力画面>

画面では「いいとこ見つけ」は「個別シート」という表現となっている。ログインすると、左欄に個人名が出てくる。ログインすれば、だれもが手元のコンピュータで入力・閲覧ができるようになる。



#### <クラス選択>

個々の生徒データベースにアクセスするために、まず学年と組を選択する。



#### <個別選択>

学年・組を選択すると、そのクラスの生徒一覧が出てくる。氏名の横の件数は、入力された件数を表している。

